

ニューフェイス紹介

2023年10月1日～2023年12月1日
①趣味 ②病院の印象 ③自己PR ※部署別に掲載



透析室 看護師
永田 洋子
ながた ようこ



クラブ活動報告

大会成績

ゴルフ部

【第49回 TEAMきずな杯】

■日時／2023年10月28日(土)
■場所／Kochi黒潮カントリークラブ
(太平洋・暖流コース)

優勝 濱岡 嘉一(ゲスト)
準優勝 和田 建夫(ゲスト)
3位 堀川 健太(管理部)
4位 中村 章一郎(名誉院長)
5位 福富 敬(外科医長)

野球部

病院野球リーグ【3試合目】

■日時／2023年11月26日(日)
高知大学病院 vs 高須病院ダイアライザー

	1	2	3	4	5	6	7	計
高知大学病院	0	0	2	0	1	0	1	4
高須病院DLZ	3	0	0	0	0	3	×	6

ふれあい

高知高須病院 院内広報誌

新年の
あいさつ

尚腎会の絆をもって
より良い一年に



医療法人尚腎会 理事長
池辺 弥夏 (いけべ みか)

明けましておめでとうございます。皆様穏やかに新年を迎えられたこと思います。

昨年度はコロナ禍から日常への生活の変化もあり、これまで医療従事者ということで制限の多かった日々でしたが、自由度が増してストレスもずいぶん軽減されました。昨年末には4年ぶりの忘年会が賑やかに開催でき、日常のありがたさを本当に実感したかったです。

さて、本年は当院も開院50周年の節目を迎えます。アフターコロナで気持ち新たに、また当院の理念に立ち返り、質の高い「腎疾患領域の総合医療」を提供できるように、コロナ禍で深まった尚腎会の絆をもってより良い一年にしたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

目次

特集 新年座談会 CKD(慢性腎臓病) チーム医療 (P4~5)

- 新年のあいさつ(P1~3)
- そらまめ教室(P6)
- 職場探訪(P7)
- 災害訓練(P8~9)
- 資格プラスα!(P10)
- 忘年会(P10)
- 永年勤続表彰式(P11)
- ニューフェイス紹介(P12)
- クラブ活動報告(P12)
- ご結婚・
ご出産おめでとう(P12)

患者さんの良き理解者、援助者となり、 より良い医療を提供します

1. 患者さんの立場を理解し、暖かい心、豊かな心で、患者さんの立場に立った医療を実践します
2. たゆみない知識の習得と技術の向上に心がけ、患者さんに還元します
3. 清潔で快適な環境を提供します
4. 柔軟性を持って、互いの連携と協調に努めます
5. 情報の確保に努め、進取の精神を持って創造と実践を心がけます

1階ロビー
新年ご挨拶の
正月飾り



病棟 長崎 美里 (ながさき みさと)
2023年11月14日生まれ
紬(つむぎ)ちゃん

編集後記

「院内誌」として発刊してきた『ふれあい』ですが、2024年より「院内広報誌」としてリニューアル致しました。

患者さんや他の医療機関の皆様に興味を持って頂ける紙面を作りたいと思いますので、よろしくお願い致します。(広報委員 前川)



尚腎会 2023年11月の診療実績

- 外来患者数／3,099人
- 紹介患者率／18.1%
- 新入院患者数／106人
- 退院患者数／101人
- 平均在院日数／11.2日
- 病床利用率／63.1%



皆様の知恵と 行動力に期待



高知高須病院 院長
大田 和道 (おおた かずみち)

尚腎会の職員の皆様方、新年あけましておめでとうございます。

2023年はコロナ禍で中断していた様々な病院内外の行事が再開となり、高知市災害時救護病院の災害訓練の実施や忘年会の復活がありました。

さて2024年ですが、5月には病院機能評価受審を控えています。5年ごとのイベントであり、すでに高知高須病院本院の各部署で取組みが進行中です。

この目的は、病院の特徴を勘案しつつ、各評価項目で我が国の標準的診療体制レベルに達しているかどうかを判断するものです。

全職員の皆様の総力で受審合格を勝ち取るようお力添えをお願い致します。皆様の知恵と行動力に期待をしています。

また2024年は職場労働環境の改善を目標に挙げます。近年、たくさんのハラスマント報道があり、医療業界も決して例外ではありません。

眞面目に働く職員さんの意欲を落とさない職場環境の構築を目標に、病院長として取り組んでいきます。

では、2024年皆様と一緒に尚腎会の繁栄のために歩みを進めてまいりましょう。

活力が旺盛となり、形が整う年 ～今年は辰年～



高知高須病院室戸クリニック 院長
清藤 啓之 (きとう けいし)

ここ3年間、医療機関はコロナとの戦いに明け暮れ、いろいろな情報に振り回されながら過ごした年でした。

2023年は最後に阪神タイガース優勝に沸きましたが、2024年はどんな感じの年になるのやらと思いつつ、ふと考えてみると、なんと辰年。小生は年男に当たります。

十二支でいえば龍ですが唯一実在しない想像上の動物のため、よく分からぬ事だらけです。そこで調べてみたところ、龍は古代中国の神話で神獸とされ、姿は「龍に九似あり」といわれるよう、

角は鹿、頭は駒駝、目は鬼、身体は蛇、腹は蜃(みずな:想像上の動物)、鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎、耳は牛に似て、鬚を蓄えており、一枚だけ逆さに生えた逆鱗(げきりん)があり、それに触ると激高するとのことです。

そんな龍ですが、辰年は陽気が動き、万物が振動し、活力が旺盛となり、形が整う年と言われています。

そのような世の中になる事を願いつつ、健康に気を付けて頑張ってゆくつもりです。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

「新しい日常」に備える



高知高須病院附属安芸診療所 院長
戦 泰和 (せん やすかず)

コロナの長いトンネルを抜けると、そこは「日常」だった。

よさこい祭りもいつもの賑わいが戻り、幸いコロナパンデミック再燃もありませんでした。マスクをしていない人も増え、忘年会もつつがなく行われ、日常が徐々に戻ってきた実感があります。しかし、安芸診療所ではインフルエンザワクチン接種に加え、コロナワクチン接種も引き続き行っており、2種のワクチン接種が日常になりつつあります。

この数年、コロナパンデミックから始まり、ロシアによるウクライナ侵攻、安倍元総理暗殺、ガザ事変等々、非日常的な出来事が立て続けに起こり、「新

しい戦前」という人もいます。日常は戻ってきていますが、それは昨日の日常ではなく、新たな日常といえるものです。そして私たちは、医療においてもコロナパンデミックのような新たな事態に対応できるよう今後も「明日の日常」に備えなければなりません。

コロナパンデミック期のスタッフの皆さんのお奮闘努力に感謝、敬意を表しつつ、YEAR OF DORAGON、新しい年に際して、新しい日常に向けて恐れることなく、しかし油断なく歩んでゆきたいと思っています。休止状態であった安芸そらまめ教室の再開に向けて、鋭意準備中です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

成長の実を大きく育てる 「辰年」を迎えて



介護付有料老人ホームはるか 施設長
岡林 正美 (おかばやしまさみ)

新年明けましておめでとうございます。本年も皆様にとって、幸多き一年になりますことを心よりお祈り申し上げます。「はるか」もおかげさまでにぎやかな新年を迎えております。これもひとえに皆様方の温かいご支援、ご協力の賜物と御礼申し上げます。

さて昨年は、終わりの見えないロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・ハマスによる戦闘、日本でのジャニーズやビッグモーターの問題など悲壯な話題が多い年でした。そのような中、侍ジャパンのWBC優勝、阪神タイガース日本一には心が躍りま

した。

そして、長い間私たちを苦しめたコロナは5類に引き下げられましたが、まだまだ制限された自由と刺激の少ない我慢の生活を入居者様、ご家族様にはお願いしております。皆様のご協力に感謝いたします。

今年は、成功という芽が成長していく、姿を整えていく「甲辰(きのえ・たつ)」年を迎えます。はるかの更なる発展に向かって、成長の実を大きく育てまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

特集 新年座談会

CKD(慢性腎臓病)チーム医療

慢性腎臓病を予防し、進行をおくらせるため
皆で一緒に「腎臓を守る」

当院のCKDチームは、理念である

「患者さんとのよき理解者、援助者となり、より良い医療を提供します!」を目指して、
患者さん、家族に寄り添い、日々「チーム医療」を実践しています。



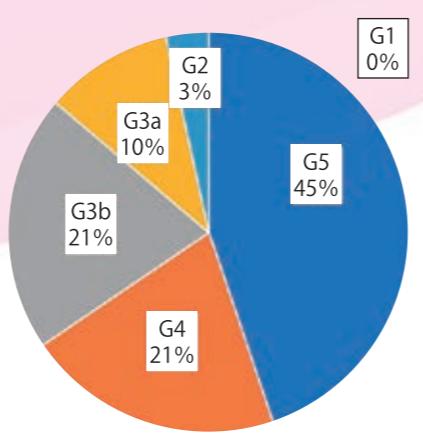
左から/●塩田 廣子(看護師・腎臓病療養指導士) ●鈴木 千栄子(管理栄養士) ●池辺 弥夏(理事長・腎臓内科部長)
●川添 由美(薬剤師) ●氏次 飛鳥(MSW)

かかりつけ医から 腎臓専門医・専門医療機関への紹介基準

原疾患	蛋白尿区分		A1	A2	A3
	尿アルブミン定量 (mg/日)	尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
糖尿病			30未満	30~299	300以上
高血圧 腎炎 多発性囊胞腎 その他	尿蛋白定量 (g/日)	尿蛋白/Cr比 (g/gCr)	正常 (-)	軽度蛋白尿 (+)	高度蛋白尿 (+~)
			0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (mL/分 /1.73m ²)	G1 正常または高値 G2 正常または軽度低下 G3a 軽度~中等度低下 G3b 中等度~高度低下 G4 高度低下 G5 末期腎不全	≥90 60~89 45~59 30~44 15~29 <15	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■ ■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■ ■■■■■ ■■■■■ ■■■■■	■■■■■ ■■■■■ ■■■■■ ■■■■■ ■■■■■ ■■■■■

(作成:日本腎臓学会、監修:日本医師会)

ご紹介頂いた時の CKDステージ(n:87)



安芸診療所でも2023年6月から「腎臓内科外来」を新設しています。(ふれあい108号に掲載)
「ふれあい」ではさらに詳しい情報を掲載予定です。ご期待ください。

川添(薬剤師)

塩田(看護師)

ふれあい vol.110

CKD患者さんを対象に「そらまめ教室」を再開しました。診察で聞けなかったことなど、教室に来て遠慮なくご相談頂けるように、個別相談を充実していただきたいです。

栄養指導は予約して後日となることが多いですが、当院は当日可能です。医師から食事療法が必要と言われた時が一番モチベーションが高まっているときなので、**当日介入できること**のが当院の強みではないかと思います。今後も患者さんが食事療法を継続できるように取り組んでいきたいです。

塩田(看護師)

ふれあい vol.110

5

し、患者さんごとにできるレベルが違つてきますので生活に合わせて支援ができるように努めています。

一度早い段階で紹介頂ければ かかりつけ医との連携



腎機能や尿検査異常を指摘され受診される方は、その先の「透析になること」を一番心配されています。治療の必要なことが伝わらないと治療意欲につながらないと思うので、しっかりと説明して理解して頂けるように関わっています。高齢の方も多いですし、理解が難しいこともたくさんありますので、繰り返しチームで関わってフォローしています。



常に心掛けてるのは、患者さんは不安を抱えて受診されているので、思いを引き出し、聞きたいことを医療者に伝えられるように傾聴することです。

氏次(MSW)

病期が進むほどコントロールが難しくなり、タンパク摂取制限が厳しくなります。早く介入できれば、ほぼ普通食と変わらないレベルで「少しことに気を付けて下さい」とお話しできます。



腎機能が下がつてくると減量が必要な薬もあります。早めに紹介頂ければ、専門の医師や薬剤師がチェックできます。腎機能への負担も軽減できると思います。

川添(薬剤師)

ふれあい vol.110

5

患者さんや家族との関わり・思い

池辺

腎機能や尿検査異常を指摘され受診される方は、その先の「透析になること」を一番心配されています。治療の必要なことが伝わらないと治療意欲につながらないと思うので、しっかりと説明して理解して頂けるように関わっています。高齢の方も多いですし、理解が難しいこともたくさんありますので、繰り返しチームで関わってフォローしています。

池辺

蛋白尿で原因がはつきりしてない場合や腎機能低下の場合、後期になって紹介となるケースも多いので、紹介基準より少し早い段階で紹介して頂き、かかりつけ医と共診の形で連携が取れればありがたいです。

鈴木

トロールが難しくなり、タンパク摂取制限が厳しくなります。早く介入できれば、ほぼ普通食と変わらないレベルで「少しことに気を付けて下さい」とお話しできます。

鈴木(管理栄養士)

ふれあい vol.110

5

塩田

常に心掛けてるのは、患者さんは不安を抱えて受診されているので、思いを引き出し、聞きたいことを医療者に伝えられるように傾聴することです。

川添

患者さんは主に薬の話になりますが、薬以外のことでも困られている事もお聞きするので、患者さんが安心して治療を受けることができるよう専門の職種になげています。

川添

外来患者さんの残薬問題について取り組みができるばと思っています。外来患者さんは保険薬局で指導が行われていますが、気軽に院内でも相談できる体制になれば、もっと薬剤師が服薬指導を行う機会が増え、残薬減少につながると考えています。

川添(薬剤師)

ふれあい vol.110

5

特集 CKD(慢性腎臓病)チーム医療

そらまめ教室を開催

次回開催も楽しみ!

病棟看護師 川上 美幸 (かわかみ みゆき)

2023年10月21日(土)に、そらまめ教室が開催され、患者さんとそのご家族12人のご参加を頂きました。

はじめに大田和道院長より「腎臓を悪くしないために気を付けること」、次にリハビリテーション部島崎由宇副主任より「運動習慣について」の講義がありました。

質疑応答ではたくさんの質問を頂き、患者さんが病気への关心や運動に取り組もうとする意欲が伺え、「また来ます」「また違う話も聞けるのか?」など、次回の開催も楽しみにしてくれている患者さんもおられとても嬉しく感じました。

そらまめ教室では以下のようなご質問を頂きました(一部)

Q チョコザップ、今流行っていますがどうでしょう?



講義内容を紹介します

運動はどうして必要な?

リハビリテーション部 副主任 島崎 由宇 (しまさき ゆう)

慢性腎臓病には適度な運動が効果的だと言われています。以前は安静にすべきだと考えられていきましたが、運動の効果が実証され、安静は不必要だということが分かっています。

では、どのような運動が効果的なのでしょう。基本的にはウォーキングなどの有酸素運動、筋力トレーニング、ストレッチです。それぞれ目的に違いがあり、有酸素運動は体力の向上、筋力トレーニングは筋力強化、ストレッチは筋肉の柔軟性の改善による関節痛の軽減等となります。

ただ、日常生活に運動を加えることを面倒に感じる方も多いいらっしゃるかもしれません。そういう方は運動を行うことを目的としていませんか?

運動を行うことによって元気な状態が維持でき、ご家族とおかけしたり、自分の趣味などをすることが出来ます。「運動」を目的とするのではなく



リハビリスタッフ：お気軽に声をかけて下さい



教室の様子

Q 運動する理想の時間帯は?

A 季節によっても違います。夏は朝、夕方や冬は昼間が良いです。



職場探訪 ②

臨床工学部

医療技術の進歩と共に ～臨床工学技士 広がる活躍の場～

臨床工学部 課長 豊永 純平 (とよなが じゅんぺい)

「医工連携」という言葉があります。

これは、医学と工学が協力して医療の質を向上させるという理念を表しています。

私たち臨床工学技士は、長年にわたり医療現場でこの理念を実践してきました。

今回は、私たち臨床工学技士と高知高須病院の臨床工学部について紹介します。

■透析室の一員として3施設で活動

臨床工学部には61人の臨床工学技士が所属し、複数のチームで構成されています。

主力となる透析専従チームは血液透析を中心とした血液浄化療法を手がけています。透析室の一員として高知高須病院・附属安芸診療所・室戸クリニックの3施設で活動し、約750人の透析患者さんへ個々に合った透析を提供すべく尽力しています。

また、腹膜透析分野や、透析リハビリ分野でも活動しており、他職種とのチーム医療を実践しています。



■安全、安心な治療の提供へ

医工連携において、病院で使われる約700台の多種多様な医療機器の管理も私たちの重要な役割です。

透析機器チームと医療機器専従チームによって身の丈を超す大きな手術用ロボット、数百台の透析装置、手のひらサイズの小型測定装置に至るまで、専門知識を活かした保守・点検・管理を行い、患者さんに安全・安心な治療を提供する準備を整えています。



■業務拡大 ～医療技術の進歩と共に～

近年は医学・工学の進歩に遅れないようそれぞれのチームが業務拡大に取り組んでいます。

VA(バスキュラーアクセス)専従チームによる超音波エコーやPTA(経皮的血管形成術)補助、医療機器専従チームによる内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」の操作補助、前立腺MRI融合標的生検での医師補助など多岐にわたります。

これらの活動は、厚生労働省の「医師の働き方改革」に伴う改正によってさらに後押しされています。



■学術活動

部署として学術活動にも力を入れており、様々な学会で研究成果を発表しています。

2023年度は16演題を発表したほか、座長やシンポジスト、セミナー講師として9セッションを務めました。

これらの学術活動を通じて自己研鑽を深め、新たな情報を収集し業務に活かしています。



私たち臨床工学技士と臨床工学部は、患者さんに最良の医療を提供するために、医療技術の進歩と共に進化し続けます。

災害医療救護訓練実施 「救護病院」・「災害透析」の役割

一丸となり「ワンチーム」で行った 実りある訓練

管理部 部長 近森 久司（ちかもり ひさし）

2023年秋、ラグビーワールドカップ・フランス大会が開催され日本代表チームが激闘を繰り広げたことは記憶に新しいでしょう。日本が初めてベスト8に進出したのは前回大会の2019年。「ワンチーム」というスローガンが流行語大賞にも選ばされました。「ワンチーム」とは全員の力を合わせて、一丸となって一つの事をやり遂げるといった意味で用いられます。

さて、ワールドカップと同じくして10月22日(日)に当院で災害医療救護訓練が実施されました。この訓練は高知市災害時医療救護計画に基づく救護体制の構築を目的に、高知市内の21施設の救護病院が持ち回りで行っており、当日は155人の職員のほか、訓練アドバイザーの高知赤十字病院 山崎浩史医師をはじめJA高知病院 谷村正信医師、ファシリテータ、高知大学 DMAT(災害派遣医療チーム)、エール薬局、看護学生、自主防災組織、他施設からの見学の方、行政関係者など約200人が参加しました。また、当院は災害透析の役割も担っていることから、透析患者の受け入れも並行して行うダブル訓練となりました。



多くの職員は本格的な訓練に初めての参加でしたが、クロノロやトリアージなどの事前訓練を行い、災害に関する知識を身につけるとともに訓練当日まで様々な検討を重ね、一丸となって取り組みました。参加者からは「大規模地震発生時の救護病院としての対応や具体的な行動がイメージできた」という声が聞かれました。課題も多く見つかりましたが、関係各位のお力添えにより「ワンチーム」となって完遂した実りある訓練となりました。



泌尿器科 部長・トリアージエリア 統括班長
湊 淳（みなと じゅん）

今回の災害医療救護訓練のための準備として6月からトリアージ研修を開始しました。私自身がDMAT養成講習で教わったことを今度は指導する立場になり、手探りの状態で臨みました。

一次トリアージは何とかなりましたが、二次トリアージは演習する時間が少なく、ぶつけ本番の訓練となりました。それでも1ヶ月前に予行演習ができたことによって課題があがり、本番ではその修正を踏まえて臨むことができました。

ただ予行演習では赤、黄エリアの重症者は搬送する段取りで動いていたのですが、本番では通信障害という不測の事態が起こりました。救急搬送ができない状況で、籠城への切り替えに対応できなかったことが大きな

課題となりました。しかし、それが良い成果になったと思います。小さな規模でいいので今後も訓練、実習を続けていきましょう。

皆さん本当に疲れさまでした。



【本部エリア】～全体像の把握、情報共有の難しさを実感～

本部エリアは大田和道院長を本部長とし、情報班19人、施設保全班4人、物資器材班4人の3班から構成され、情報班はさらに連絡調整係、救護係、広報係の3係に分かれ訓練に臨みました。

各部署やトリアージエリアから各班へ膨大な情報が



伝達され対応をする中で、本部メンバーとして全体像を把握し他班と情報を共有することの難しさを感じました。また、実際に通信トラブルが発生し、被災者の外部医療機関搬送が滞るなど、想定外対応の重要性を学ぶことができました。



看護部 部長・災害本部 副本部長
安井 美恵（やすい みえ）

【透析エリア】～災害時の透析受入を想定して～

透析エリアでは医師、看護師、臨床工学技士、介護福祉士など合計46人が参加し、透析本部、受付、問診、医療対応、透析対応などの各役割に分かれ、広域の透析受入を想定した形で訓練を実施しました。

当日は事前の準備とスタッフの努力により比較的ス



臨床工学部 課長・透析室対策本部 副本部長
仙頭 正人（せんとう まさと）

ムーズに対応することができましたが、情報伝達や連携等における新たな課題も明らかとなりました。

今後も訓練と改善を継続し、災害時における透析医療体制の充実・強化を進めます。



災害訓練ではこんな工夫も…



工夫
1

各エリアおよび高知市災害本部をZOOMでつなぎ、状況把握できるようにしました。コロナ禍でのWEB会議から出たアイデアです。

工夫
2

クロノロ対応の工夫。必要項目は磁石で作成し、迅速に対応できるようにしました。



令和6年能登半島地震により被災された皆さんに心からお見舞い申し上げます。不安が募る状況が続いておられますですが、皆さまの安全と一日も早い復興をお祈りしております。

専門性を高め、より質の高い医療の提供へ



病院や診療所では医師をはじめ、看護師や薬剤師、臨床検査技師など、様々な職種がそれぞれの専門性を發揮して患者さんに向き合っています。

当法人では、それに加えてプラスαの資格を持ち、より質の高い医療の提供につなげている職員がたくさんいますので紹介します。

今回は「診療情報管理士」です。

皆さん、**診療情報管理士**ってご存じでしょうか。

管理部診療情報課 恒石 真紀 (つねいしまき)

診療情報管理士の主な業務内容として、「診療情報を体系的に管理する業務」「診療情報を安全に管理する業務」「診療情報を点検する業務」「診療情報を有効に活用する業務」「診療情報を提供する業務」です。

看護師の資格を持つ私が診療情報管理士を目指そうと思ったきっかけは医療安全管理者時代に遡ります。医療事故発生時には、事故原因の追究を行っていく上で診療記録は重要な証拠になります。

当時を思いおこすと誰が読んでも分かりにくい記録が多く、現在のように診療記録の点検を行ってい

なかつたと記憶しています。

資格取得のためには、診療情報管理士の役割やWHO国際統計分類の概要など必須教科の履修、教科別試験に合格しなければ、本試験を受検することができない難しい資格ですが、興味がある方はトライしてみる価値がある資格だと思います。

現在、2人の診療情報管理士が在籍しており、診療記録の量的・質的点検を含む様々な業務を行っています。今後も看護師資格を生かして業務遂行をしていきたいと思います。



た。

残念ながら今年は、余興ダンスはありませんでしたが、4年ぶりの宴に花が咲き、終始笑顔の忘年会でした。



笑顔いっぱい!

4年ぶりの開催で楽しく盛り上がりました

管理部総務課保育主任 細木 純子 (ほそぎ すみこ)

2023年12月9日(土)、ザ・クラウンパレス新大阪急高知で開催された尚賢会高知高須病院の忘年会。190人が参加し、大田和道院長の軽快なトークと乾杯の音頭でスタートしました。

恒例の○×クイズでは、正解が発表される度に各テーブルから喜びの叫びと悔しがる声が一斉に上りました。またけん玉大会では、けん玉に扮した大田院長がスペシャルゲストで登場! 場内からは笑いの渦が。そんな大田院長の始球式で始まり、各部署から「我こそは!!」と、券と大田院長との写真撮影という豪華な賞品をゲットしました! クライマックスの富くじ抽選会では、3分の1という当選確率にドキドキ♡ワクワク。高額景品にのつれ、歓声やため息が会場のあちらこちらから聞こえています。

永年勤続表彰式

令和5年度尚賢会忘年会にて、永年勤続職員の表彰式が執り行われました。今年度は21人の職員が表彰され、そのうち3人が40年勤続表彰の対象となりました。

40年前(昭和58年)といえば、東京ディズニーランド開園、ファミコン発売開始、「おしん」放送などがあった年です。

表彰されたみなさん、永年の勤務、ありがとうございます。日々の努力のなかで培われた知識や経験を生かし、今後ともよろしくお願い致します。

永年勤続職員を代表しまして、40年勤続表彰を受けられた有光富美子さんの謝辞の言葉(一部抜粋)を紹介いたします。



勤続40年表彰の上田さん(左)と有光さん(右)

勤続40年表彰

患者さんと目線を合わせ、仕事をしていきたい

附属安芸診療所 師長代理
有光 富美子 (ありみつ ふみこ)

高知高須病院本院で20年間、病棟、手術室、外来、南診療所、透析室とそれまでの部署を経験させて頂き、その後、現在に至るまで附属安芸診療所で勤務させて頂いております。自身の40年前を思い起こしてみると、昼間は看護助手として働き、夜間は学びの場へと向かい、看護の道へと進んでいました。ナースキャップを身につけた時には「これからは、人の命を預かる仕事をしていくのだ」と身の引き締まる思いをしたことでした。

看護師になり、最初に配属されたのは病棟でした。働き始めて間もなく、寺尾尚民院長(現会長)の回診に同行する日が訪れました。回診をされる院長は、自ら丸椅子を片手に持ち、「人ひとりのベッドサイドに行き、目線を合わ

せながら、病状や治療等の説明をし、時には患者さんの長い話にも耳を傾けていました。その姿を見て、私も患者さん

に接する時には、目線を合わせながら仕事をしていきたいと思いました。

現在、透析を受けている患者さんは、年々高齢化傾向にあり、様々な合併症や認知症を抱えるリスクが高まっています。治療を受ける上で「不安や苦痛

まいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

最後に永年勤かせて頂き、本当に感謝いたします。

ありがとうございました。

永年勤続リスト

勤続	表彰者合計数	所属	人数
勤続40年表彰	3	安芸透析室	1
		透析室	2
勤続30年表彰	2	診療情報課	1
		総務課	1
勤続20年表彰	8	病棟	2
		ICT課	1
		外来	2
		医局	1
		室戸透析室	1
		栄養部	1
		透析室	4
勤続10年表彰	8	手術室	1
		医局	1
		安芸	1
		外来	1

せながら、病状や治療等の説明をし、時には患者さんの長い話にも耳を傾けていました。その姿を見て、私も患者さん

に接する時には、目線を合わせながら仕事をしていきたいと思いました。

現在、透析を受けている患者さんは、年々高齢化傾向にあり、様々な合併症や認知症を抱えるリスクが高まっています。治療を受ける上で「不安や苦痛

まいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

最後に永年勤かせて頂き、本当に感謝いたしました。

ありがとうございました。